

数対四字熟語の分布

湘南台高校 山本明利

■はじめに

これは全く物理には無縁の記事であることをはじめにお断りしておきます。暇つぶしの随筆と読んで読み流してください。

「数対四字熟語」というのは私の造語で、「三寒四温」のように一對の数字を含む四字熟語をさします。日能研の車内広告で四字熟語の尻取りの問題を見てふと思いつき、このような四字熟語がどのような分布をしているかを調査してみました。第一数字を横に、第二数字を縦にとって表に整理し、分布の法則を探るわけです。職員室の閑話にしたら国語や社会科の先生が面白がって国語大辞典やら日本史大辞典を持ち出してきて夢中で調べてくれました。次のページの表がその結果です。私にはさっぱり意味のわからないものも含まれています。

■蒐集の条件

蒐集に当たっては第一文字と第三文字に対になる数字をもつ四字熟語であることを条件としました（「海千山千」のみ例外）。したがって「十千十二支」や「五十歩百歩」は除外しました。「一都六県」のように単なる偶然的な数事実を表したものは除きましたが、「五畿七道（日本全国の意）」や「九尺二間（長屋、転じて狭い家の意）」のようにすでに成句化しているものは一応収録しました。

分布は予想通りかなり偏ったものになりました。一マスに二つの熟語が入っているところはかなりたくさんある部分だと思ってください。例えば（一、一）や（一、千）などのコマは無数にあります。一つしか入っていないのは比較的珍しいものであり、空欄は搜索したもののついに発見できなかったところでした。

■分布の法則

表をながめると、次のような分布法則が見えてきます。

(1)単位の法則：

とにかく「一」を含むものは多い。基準・最小量としての意味と「小さい、少ない」という形容詞的な意味で多用されるようだ。「十」、「百」「千」、「万」もある意味では単位であり、逆に「大きい、多い」という意味で対比的に多用される。

(2)倍数比例の法則：

二つの数字が2倍、1/2倍の関係を示すものが多い（水色）。特に傾き2の線に集中が見られる。

(1)の関係を整数倍したものと考えられる。

(3)一目上がりの法則：

（一、二）、（二、三）、（三、四）・・・のように第一数字に1を加えたものが第三数字になっているものがかなりある（黄色）。逆に一目下がりほとんどなく、対角成分（第一、第三数字が等しい：桃色）も意外に弱い。数詞を昇順に発音するときの語呂のよさと縁起担ぎが原因か。

他にも、三や八が人気度が高いのに対し、二や七が意外に不人気であることなど、由来を探ると面白そうな傾向も見られます。ここに挙げた熟語の多くが仏語であることなどを考えても、こうした分布法則は漢民族ないしは大和民族の心理・信仰と深く結びついていることが推測され、文化人類学的な研究の対象になるかもしれないなどと考えたりしています。

■お願い

表の空欄に該当する熟語をご存じの方はご一報ください。→[天神の掲示板へ](#)

数対四字熟語の分布

第一数字(一文字目)

		一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	百	千	万
第二数字 (三文字目)	一	一喜一憂 一期一会	二者択一	三位一体 三世一身	四分一鑽	五日一石	六町一里 六貫一足		八紘一字	九死一生 九牛一毛	十年一日 十年一昔	百人一首 百聞一見	千載一遇 千篇一律	万死一生 万世一系
	二	一石二鳥	二束二把 二百二病							九尺二間				
	三	一読三嘆 一刀三拝	二束三文 二人三脚	三者三様			六韜三略 六時三昧		八幡三所 八町三所	九夏三伏				
	四	一天四海		三寒四温	四角四面		六道四生 六趣四生		八万四千					
	五			三々五々 三令五申	四捨五入 四分五裂	五分五分	六信五行				十風五雨			
	六			三面六臂 三省六部		五臟六腑			八面六臂					
	七			三從七去		五幾七道	六賊七害	七縦七檣 七難七福						
	八				四苦八苦 四通八達		六齋八王	七転八倒 七転八起	八元八凱 八寒八熱		十中八九			
	九			三拝九拝					八策九丘 八葉九尊	九分九厘				
	十	一暴十寒 一饋十起				五風十雨 五代十国	六菖十菊			九分十分	十人十色			
	百	一罰百戒										百人百様 百發百中	千方百計	
	千	一日千秋 一攫千金											海千山千	万紫千紅
万	一粒万倍 一事万事					六度万行				十善万乘		千變万化 千差万別		